

白馬五竜テレキャビン・リフト安全報告書

平成 27 年 12 月～平成 28 年 11 月



白馬五竜スキー場、白馬五竜高山植物園

普通索道 ゴンドラ テレキャビン 8人乗り

特殊索道

単線自動循環式 スカイフォーリフト 4人乗り

単線固定循環式 とおみ第1ペアリフト、とおみ第2ペアリフト

アルプス第1ペアリフト、アルプス第2ペアリフト

アルプス第3ペアリフトアルプス第4ペアリフト

1. 利用者の皆様へ

日頃より、白馬五竜スキー場および白馬五竜高山植物園をご利用いただきましてありがとうございます。

このシーズンは11月28日よりアルプス平のリフト営業開始になりましたが、その後の降雪が思うようになく、大変ご迷惑をおかけしました。皆様の日頃からのご利用並びにご理解を賜りまして、誠にありがとうございました。

当社、白馬五竜テレキャビン及び各リフトは、開業以来、「安全第一」をモットーに運行しております。

本報告書は、鉄道事業法に基づき制定された、安全規定第2条第4項により、白馬五竜テレキャビン及びリフトの安全確保に関しての取組と、その他安全に関する情報について公表いたします。当社従業員も基本を忘れず安全管理体を充実していく所存でございますので、よろしく願いいたします。

株式会社 五竜 代表取締役 社長 伊藤 英喜

2. 基本方針

- ・一致団結し輸送の安全確保に努めること。
- ・輸送の安全に関する法令及び関連する規定（本規定を含む。以下、「法令等」という）をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、かつ忠実に職務を遂行すること。
- ・常に輸送の安全に関する状況を理解するように努めること。
- ・職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、その取扱いに疑いがあるときは最も安全と思われる取扱いをすること。
- ・不慮の事故または災害等が発生した時は、「白馬五竜スキー場安全対策要綱」に基づき、人命の救助を優先とし、速やかに行動し安全適切な処置を行うこと。
- ・情報の伝達は、迅速及び正確に伝え、透明性を確保すること。
- ・常に問題意識を持ち、安全確保の向上と研究を行い、必要な改革には積極的に取組むこと。

3. 安全目標（平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日）

- ・安全第 1 をモットーに絶対無事故を達成すること。
- ・確実な点検整備を行い、安全運行に努めること。
- ・法令を遵守し、安全輸送の確保に努めること。

4. 事故等の発生状況（平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日）

（1）索道運転事故（索道人身障害事故）

平成 27 年度、索道運転事故（索道人身障害事故）はありません。

（2）災害（地震や暴風雨、豪雪など）

平成 27 年度、当スキー場での災害による運行停止はありません。なお強風や雷時は、安全確保のため運行の一時休止を行っております。

（3）インシデント（事故の兆候）

平成 27 年度、国土交通省へのインシデントの報告はありません。

（4）行政指導等

平成 27 年度、国土交通省からの行政指導はありません。

5. 輸送の安全確保のための取組

（1）従業員教育の実施

- ・索道係員の業務に必要な知識技能を保有させるため、研修に積極的に参加して索道技術の向上や知識の習得に努めています。

4 月	北陸信越索道協会主催	索道研修会	2 名参加
5 月	メーカー主催	握索機 OH・初級電気研修会	2 名参加
7 月	長野県索道事業者協議会主催	索道研修会	2 名参加
10 月	北陸信越運輸局主催	索道技術管理者研修会	3 名参加
11 月	長野県索道事業者協議会主催	索道研修会	2 名参加

- ・社内教育にて索道の安全な運転及び設備を確保するため、十分な知識と技能を有し、常にその向上に努めるよう指導しています。

6 月 夏期シーズン前に夏期営業従業員の全体研修会開催。

12月 冬期シーズン前には冬季営業全従業員を対象に全体研修会の開催。



毎月 各索道主任を対象に、主任会議の開催。

※株式会社五竜は ISO14001（環境 ISO）を取得し、毎月定期的に ISO プロジェクト会議を開催、その日に部課長会議も開催、全部署に結果を報告、周知遵守するようにしている。

（2）緊急時の対応訓練

救助訓練の実施

テレキャビン 平成 27 年 6 月 15 日 11 月 30 日 救助訓練・予備エンジン救助訓練。



特殊索道 平成 27 年 1 月 8、9、13、14 日リフト 救助訓練・予備エンジン救助訓練。



(3) 安全確保のための設備投資及び対策

当社では、安全の維持・向上のため整備や工事等を実施しております。

平成 27 年度に実施した主な整備・工事等は次のとおりです

テレキャビン シーケンサー交換工事

テレキャビン グリップ定期的OH 30台実施 場内設備塗装等実施

とおみ第1ペアリフト 減速機OH及び速度 1.6m/s から 1.3m/s 変更工事

スカイ4リフト 減速機OH工事

スカイ4リフト 樹脂芯ワイヤーに交換工事

スカイ4リフト グリップOH 30台実施

全支柱索輪及びビーム等グリスアップ・不良索輪交換

各ゴンドラ・リフト 場内設備Vベルト・減速機オイル交換・押送タイヤ不良品交換

(4) 安全に係る内部監査の実施

当社では、内部監査は ISO14001・安全マネジメント両方を利用し、適切に確立・実施・維持され機能していることを確認しています。課題等に関しては速やかに是正・改善処置を行っております。

6. 安全管理体制

責任者の役割と権限

社 長

輸送の安全確保に関する最終的な責任を負う。

安全統括管理者

索道事業の輸送の安全確保に関する業務を統括する。

索道営業部 部長・次長

安全統括管理者の下、索道に関する一切の業務を把握し処理し所属係員を指揮監督する。

索道営業部 課長・課長代理 (技術管理者)

索道営業部 部・次長の下、索道の運行の管理、索道施設の保守の管理、その他 技術上の事項に関する業務を統括する。

役員による場内巡回 当社役員が定期的に当スキー場を巡視し、スタッフとの意見交換を通じて安全管理状況を確認しています。

7. 利用者の皆様の連携とお願い

平成19年より、毎年この安全報告書を公表することが義務付けられ、索道事業の安全確保の取組を知って頂き、また皆様からのご意見ご要望をお聞きしながら、安全運行に努めて参りたいと思えます。当社の安全確保の取組に関しての、ご感想及びご意見等をお寄せ下さい。

注意事項とお願い

一般財団法人日本鋼索交通協会で制定されましたゲレンデ六法を記載させていただきます。スキー場での行動にも、責任が伴います。ルールを守って安全で楽しいスポーツを

ゲレンデ六法（六つの義務）

- 第1条 滑りをコントロールする義務。（自分にも他人にも暴走は危険です）
- 第2条 前をよく見て滑る義務（下方を滑る、スキーヤー、ボーダーが優先です）
- 第3条 他人の滑りを妨げない義務（上から見えない所は危険）
- 第4条 滑り出す時、コースへ出る時の義務（滑っている人を危険な目に合わせない）
- 第5条 他人に危害を与えない義務（スキーやボードには必ず流れ止めをつける）
- 第6条 標識や指示に従う義務（危険を避けるための信号です）
(安全なリフトの利用もあなたの責任です)

以上を守っていただくことをお願いいたします。

〒399-9211

長野県北安曇郡白馬村大字神城 22184-10

株式会社 五竜

TEL 0261-75-2101 FAX 0261-75-2832

E-mail ; info@hakubaescal.com

Hp ; www.hakubaescal.com